

## 第10回 鳥取県西部地区 流域治水及び減災対策協議会 概要

1 日 時 : 令和4年5月30日(月) 14時00分～15時00分

2 会 場 : オンライン会議

3 出席者 :

(委員)

米子市長(代理) 防災安全監 佐小田 廣光

境港市長(代理) 建設部長 灘 英樹

日吉津村長 中田 達彦

大山町長(代理) 総務課長 金田 茂之

南部町長(代理) 総務課防災監 田中 光弘

伯耆町長 森安 保

日南町長 中村 英明

日野町長(代理) 総務課危機管理監 天野 智

江府町長 白石 祐治

気象庁 鳥取地方气象台長 弘田 実

国土交通省 中国地方整備局 日野川河川事務所長 大塚 尚志

国土交通省 中国地方整備局 倉吉河川国道事務所長(代理) 副所長 平西 邦裕

国土交通省 中国地方整備局 出雲河川事務所長(代理) 副所長 平井 雅之

農林水産省 中国四国農政局 中国土地改良調査管理事務所長(代理) 次長 藤井 秀行

鳥取県 危機管理局長 水中 進一

鳥取県 農林水産部長(代理) 農地・水保全課課長補佐 西田 幸生

鳥取県 西部総合事務所 農林局長 妹尾 秀司

鳥取県 西部総合事務所 日野振興センター 日野振興局長 宮永 二郎

鳥取県 県土整備部長(代理) 次長 前田 達美

鳥取県 西部総合事務所 米子県土整備局長 池田 典男

鳥取県 西部総合事務所 日野振興センター 日野県土整備局長 宇山 俊彦

4 議題

(1)令和4年夏の天候の見通しについて

(2)規約改正について

(3)今後5ヵ年(第2期:R4～R8)の減災に係る取組方針の策定について

(4)今後の「二級水系流域治水プロジェクト」のフォローアップ等について

(5)その他

## 5 議事概要

(1)令和4年夏の天候の見通しについて

○今後1カ月予報の降水量は平年並みか多く、今後3カ月予報としてはほぼ平年並みの見通し。(鳥取地方気象台)

(2)規約改正について

○本年2月に開催した「減災対策協議会」において、「流域治水」の協議も追加することとしたことから、農林水産省中国四国農政局及び県の農林水産部も委員として参画することについて事務局から提案し承認された。

(3)今後5ヵ年(第2期:R4～R8)の減災に係る取組方針の策定について

(ア)これまで(第1期:H29～R3)の振り返り

○昨年小学校で防災出前講座を開催。防災訓練に先立ち出前講座を実施したことで、児童は真剣に防災訓練に取り組んでいた。(米子市)

○コロナ感染症対策を実施した避難所の設置訓練などの防災訓練や、職員の初動対応訓練を含めた防災訓練を実施した。また、米子市と共同で洪水・津波のハザードマップの見直しを行い、web版も掲載している。村民に対して周知と啓発活動を行っていく。この他、防災士の連絡会の立ち上げ準備を進めており、情報交換・意見交換を通じて今後の取組に活かしていきたい。(日吉津村)

○防災マップの更新・全戸配布を実施。昨年、一昨年は防災訓練の代わりに避難所運営訓練を実施した。(大山町)

○浸水表示板を令和2年から設置しており今年度で全箇所を設置完了予定。また、昨年7月豪雨時に町内北部地域の気象状況が不明であったことから、その地域に小型気象計を設置した。このほか、賀祥ダム、朝鍋ダムの緊急放流による最大浸水想定を網羅したハザードマップを作成し全戸配布した。さらに、防災士の連絡協議会を設立し、3つのワーキンググループを設置した。(南部町)

○他市町村と同様に防災教育やハザードマップ作成も行っているが、昨年度から防災資機材の充実に努めており、ショベル、ダンプ、救助艇などを整備した。(伯耆町)

○ソフト的には防災専門員による出前講座としてワークショップを実施。防災士の育成も継続的に実施しており、延べ30人になる予定。災害時の資機材を分散備蓄しており、今年度は災害用トイレの整備を予定している。(日南町)

- 内水氾濫常襲地区のハード対策として、H30の台風24号で冠水した地区で排水路の整備を行い、昨年の雨では溢れることはありませんでした。昨年、防災福祉コミュニティセンターを設置し、防災と福祉が連携した交流拠点づくりなどを進めていく。支え愛マップづくりを通じた地域防災力向上と地域の小さな拠点づくりの推進ということで、集会所等の環境整備に取り組んだ。社協の生活支援コーディネーターが積極的に地域を回っているので、その状況を今後の取組に反映させていきたい。(日野町)
- 特にハード面では、庁舎や総合健康福祉センターの非常用発電機の整備を行った。ソフト面としては、ハザードマップの改訂、避難所の見直しを行った。今年度から高齢者にスマートフォンの普及を図っているため、今後そういったものを通じての避難情報の提供などを検討していきたい。(江府町)
- 防災体制の強化として排水ポンプ車の講習会を実施している。毎年の様にポンプ車が出動しており、今年度も操作訓練を実施したいと考えている。また、地域住民、建設業協会などが協力して、小松谷川で土のう作り、事前設置を行った。土のう作りに限らず関係機関が一緒になってやることは大事なことであり、今後取組を充実していきたい。その他、防災教育を各小学校で実施しており、引き続き実施していきたい。(米子県土整備局)
- 防災教育に親しみをもってもらうため、「ひの防災レンジャー」を組織して中学校や自治会で学習会等を開催している。また、緊急時に迅速な対応を行うため、県道沿いに大型土のうを仮置きして備えている。今後もいざという時の備えをしっかりと積み上げていく。(日野県土整備局)

#### (イ)今後5カ年(第2期:R4~R8)の取組方針

- これまで都度見直しを行ってきており、5カ年で達成すべき目標については継続したいと考えている。また、5カ年で実施する取組についても、完了したもの以外は原則継続実施していくべきと考えている旨を事務局から説明し、「鳥取県西部地区県管理河川外の減災に係る取組方針(第2期方針)(案)」について承認された。

#### (4)今後の「二級水系流域治水プロジェクト」のフォローアップ等について

- 「二級水系流域治水プロジェクト」については昨年作成し公表しているが、協議会規約第4条に基づき、今後本協議会にて実施状況のフォローアップを実施していく旨を事務局から説明し承認された。
- 昨年7月に過去最大の80.5mm/時間の雨量を観測するなど、記録的な大雨となり、水路越水等による内水氾濫が発生し、道路冠水や住宅等への浸水被害が発生。8月の台風9号では、河口閉塞による浸水被害も発生した。このことを受け、本市では本年度より雨水管理総合計画の策定に着手したところであり、完成後は3D都市モデルを活用した浸水シュミレーションにより、住民にもわかりやすい形で説明を行っていくことにしている。上流側の皆様のご協力を仰ぎながら、流域沿川自治体と一体となって取組を進めていきたい。(境港市)

(5)その他

○今出水期から、線状降水帯による大雨の予報を半日程度前から呼びかける。また危険度分布(キキクル)に黒色が新設され、薄紫色と紫色を統合することとした。さらに水位が急激に上昇し、3時間以内に氾濫する可能性のある水位に到達する見通しとなった場合は氾濫危険情報を発表する。(鳥取地方気象台)